〇旭川医科大学医学部看護学科 2009 年

【問題】

別添の封筒をあけ、中の千円紙幣を取り出し、次の問１、問２、問３に答えなさい。

問１この紙幣に印刷されている人物についてあなたが知っていることを、250 字以内で書きなさい。

問 2 この紙幣を、たとえば形・大きさ・デザイン、さらには紙質など、多角的な視点からよく観察し、あなたが高く評価できると思う点と、改良したいと思う点を、それぞれ理由も付けて 600 字以内で書きなさい。

問３次のページの文章は、「朝日新聞」朝刊の「声」欄に掲載された、読者からの投稿の全文です。投稿者は福島県会津若松市に住む 59 歳の高校教員だそうです。
あなたがいま取り組んでいるこの入学試験「小論文」間題の出題者も、この投稿者と同様な意見を持つ受験生、父母、教員などが全国に多数いるのではないかと推測しています。前のページの問 2 も、この投稿者の意見では、「奇をてらったテーマ」を扱った不適切な問題ということになるでしょう。
　同様な意見を持つ人々が多数いると推測しているにもかかわらず、この「小論文」問題の出題者は、なぜ今回、敢えて問 2 を出題したのでしょうか。問 2 で答えた内容を十分に踏まえながら、あなたの推測を 800 字以内で、抽象的にではなく具体的に書きなさい。

　最近の医療・看護系大学入試の小論文の出題を見て疑問に感じることがある。医療系のテーマは出しつくしたとでも思うのか、それほど関連があるとは恩えない題で書かせる大学があることだ。例えば「ひきこもり系とルーズソックス系」「カタカナ語の氾濫」「人口の移動と土地高騰」「ネット社会における匿名の功罪」などである。
　受験のための勉強が、この分野を志す生徒の今後の人生にどれほど大きな影響を持つものか、前述のテーマを出題した大学の先生たちには分かっていないと私は思う。
　生徒が一つの題について書けるようになるためには、類似のテーマについて何回も書く練習をしなければならない。そして、そのために看護・医療関係の文章を数多く読み、考える。そのような勉強を通して、知識・意識・洞察力は深まり、書く内容が頭の中に構築される。ひいては医療に携わる者としてのあり方も備わっていくのである。
　視野の広さを求めるにしても、奇をてらったテーマで受験生の意表をつくことに、どれほどのメリットがあるだろう。
　大学は正統なテーマを与えて、その分野を目指す上で基礎となる知識や意識を問い、受験生の努力を評価してほしい。

(平成 21 年 3 月 11 日付け朝日新聞「声」欄より)

【解答例】

問１

この人物は野口英世である。医師、医学博士であり、黄熱病や梅毒等の研究で知られる細菌学の権威である。彼が活躍した時代は電子顕微鏡がなく、黄熱病が細菌ではなくウィルスによるものであることは知られていなかった。その病原体を解明するため西アフリカで研究しているときに、彼自身が黄熱病に感染してアメリカで死亡した。また、彼は努力の人としても知られる。幼少のとき囲炉裏で大やけどを負い、左手に重い障害を負った。周囲の支えもあって、二度の手術を経て医師になった。（224 字）

問２

見慣れた千円紙幣だが、改めてじっくり見るといろいろなことに気がつく。形、大きさ、紙質は特に気にならないが、そのデザインと色が良くも悪くも気になる。

デザインと色の面で、まず高く評価できる点をあげたい。何よりもデザインの繊細さが光っている。いくつかの外国紙幣を手にしたことがあるが、それらに比べると格段に凝ったデザインになっている。それを引き立てているのが、細やかな色使いである。単色ではデザインの魅力は半減する。デザインと色使いが一体になって、千円紙幣の魅力を打ち出している。一部の例外を除いて、紙幣が国単位で作られることを考えると、千円紙幣の繊細さは日本の特性を象徴・主張している。

一方、デザインと色の面で問題もある。改めて千円札の裏面を見ると、率直に言ってさびしい。左側には湖に映る富士山が描かれているが、右側には何もなく製作の途中で投げ出されてしまったような印象すら受ける。それが、評価点としてあげた千円紙幣の繊細さや魅力を低減させるおそれもある。裏面のデザインを改善すべきである。もう一つ気になるのが、青を基調とした色使いである。とりわけ 1000 や千円という紙幣の価値を表示する部分が青であることが気になる。日本の男性の約 5%が色覚障害だと聞いたことがある。見えにくい色は人により異なるが、紙幣は社会に流通するものだからこそ、すべての人にとって支障のない色づかいになるよう改善を望みたい。（594 字）

問３

「奇をてらったテーマ」を扱った不適切な問題との批判を想定しながらも、なぜ、出題者は敢えて問２を出題したのか。それは、受験生の課題解決能力をはかるためである。私たちが直面する課題の解決には、論理的思考力と適性とが必要不可欠である。論理的思考力とは物事を筋道立てて考える力であり、適性とは対象に対する関心や意欲である。

それぞれについて、問２に即して説明してみよう。問２は千円紙幣の「形・大きさ・デザイン、紙質」などの「多角的な観察」と、「高く評価できると思う点」と「改良したいと思う点」を述べるよう求めている。これは、問題の発見→問題の分析→問題の解決という課題解決能力の基本パターンに当てはまる。これが一つの論理・筋道となっていることに私は着目した。また、ふだんから見慣れている千円紙幣の「形・大きさ・デザイン、紙質」に関心をもち、その良し悪しを考える意欲をもつ受験生はほとんどいないだろう。しかし、「なんだ、ただの千円紙幣ではないか」と思った瞬間に、課題解決はきわめて困難になるだろう。このように、対象への関心や意欲という適性がなければ、仮に論理的思考力があったとしても、それが課題解決には発揮されない。

見慣れているという点で、千円紙幣は、医療者が日々接する患者や病気の隠喩である。見慣れているからこそ、その様子をつぶさに観察することを私たちは怠りがちだ。しかし、人の命を扱う医療現場で対象に対する関心や意欲を失うことは危険である。たとえば、いつもと同じ頭痛を訴えている患者がいても、そこに深刻な病変が潜んでいるかもしれないことを医療者は常に留意しなければならない。そして、何かおかしいと感じたときに、課題解決型の論理的思考力が活かされるはずだ。投稿者は問 2 についても医療とは関係のない出題だと批判するかもしれない。しかし、よく考えれば、このように医療と密接に関連した出題であることがわかる。（796 字）